

会期中随時閲覧可能プログラム

一般演題／ポスター(示説)	会期中随時	会場 3:2 階ホール (PC サポート前)
---------------	-------	---------------------------

ポスターセッション：5 月 25 日（土）15:00～16:00

司会：須賀郁子（首都医校）

P-1 タイムスタディによる児童家庭支援センターの業務実態調査

○堀口康太（白百合女子大学）

P-2 准看護師問題の現在

○鈴木祐子（人間総合科学大学）・鈴木麻記（東都大学）

P-3 リアリストアプローチによる精神科危機介入プログラムの分析モデルの試作

○海老原樹恵（東京慈恵会医科大学）・木下康仁（聖路加国際大学）

P-4 神経難病患者の地域移行支援

—相談支援事業所管理者への実態調査を通して—

○坂野久美（岐阜医療科学大学）

P-5 町会の活動における災害時安否確認のあり方の検討

—災害時避難行動要支援者名簿を契機にした地区防災計画作成試行の2年目—

○北村弥生（NPO 支援技術開発機構、長野保健医療大学、南池袋二三四町会）

プログラム第1日目:5月25日(土)

大会長講演	12:30-13:15	会場1・2:106・101
-------	-------------	---------------

司会:清水準一(東京医療保健大学)

講演 『弱い』ままで生きられる社会のために——ひとりの看護学教育・研究者として——

○吉田澄恵(東京医療保健大学)

教育講演	13:20-14:50	会場1・2:106・101
------	-------------	---------------

司会:松繁卓哉(国立保健医療科学院)

講演 『弱い』ままで生きられる社会のために——ひとりの医療社会学研究者として——

○武藤香織(東京大学医科学研究所)

一般演題／口演	13:30~15:30	会場5:216
---------	-------------	---------

●セッション1 メンタルケア

司会:後藤基行(立命館大学)

1-1 精神科クリニックが開催する祭りの効用

○杉本洋(新潟医療福祉大学)・村上成文(フェニックス調剤薬局)

1-2 個人を取り巻く状況とうつ状態との間の「相応性」をめぐる語り

—日英米のうつ病手記の分析から—

○志水洋人(エジンバラ大学)

1-3 介護支援専門員による遺族支援の実態

○平野和美(国際医療福祉大学成田看護学部)

1-4 初療室で亡くなる患者の家族と看護師の関わり

○佐久間千隼(国立国際医療研究センター病院)

1-5 低開発地域の当事者運動

—ガーナの精神障害に関するトランスナショナルな運動に注目して—

○伊東香純(立命館大学)

一般演題／口演	13:30～15:30	会場6:217
---------	-------------	---------

●セッション2 組織・連携(1)

司会：海老田大五朗（新潟青陵大学）

2-1 医療におけるチーム形成に必要な志向性の共有についての研究

○吉本和輝（滋慶医療科学大学大学院）

2-2 「一番キーの人」に関心を向け続けて調整する実践

—急性期病院の外来看護のワークの研究(1)—

○西村ユミ（東京都立大学）・前田泰樹（立教大学）

2-3 入院説明において確認すべき事項をとりあげる実践

—急性期病院の外来看護のワークの研究(2)—

○前田泰樹（立教大学）・西村ユミ（東京都立大学）

2-4 「見たことのない病」への治療を求めて

—ブルキナファソにおける貧困、戦乱と小児がん患児・家族の「軌跡」—

○井田暁子（JICA 緒方貞子平和開発研究所）

2-5 看護の現任教育に性の多様性を取り入れるために

—海外の先行研究からの検討—

○影山葉子（浜松医科大学）・三部倫子（奈良女子大学）

一般演題／口演	13:30～15:30	会場7:335
---------	-------------	---------

●セッション3 国際・医療・介護

司会：牛山美穂（大妻女子大学）

3-1 渡日インドネシア人技能実習生に対する食事介助研修プログラムの開発と評価

(1) —渡日前の介護技術の理解度および習得度—

○平野裕子（長崎大学）・比留間洋一（静岡大学）

3-2 日本の介護・看護分野で働く中国人女性

—ライフヒストリーから探る来日の背景や将来展望—

○大野俊（清泉女子大学）

3-3 文化と介護

—踊りを取り入れた韓国と在日コリアン通所介護施設のレクレーションを事例に—

○伊藤尚子（京都府立医科大学）

3-4 インドネシアにおける出生前検査、人工妊娠中絶、障害への態度

—アジアにおけるありようの一例として—

○白井千晶（静岡大学）

3-5 配偶子バンクのグローバルな展開

—北欧と米国・日本との比較の視点から—

○李怡然（東京大学医科学研究所）・渡部沙織（東京大学医科学研究所）

・原田香菜（早稲田大学）

一般演題／口演	13:30～15:30	会場 8 : 336
---------	-------------	------------

●セッション 4 歴史・医療化

司会：本郷正武（桃山学院大学）

4-1 近代日本の禁酒運動に見られる禁酒概念の象徴的な機能

○松井達也（京都先端科学大学）

4-2 癪者、神父、皇太后

—神山復生病院院長岩下壮一の世界観—

○松岡秀明（東京大学）

4-3 医療と医学

—EBM 以後の社会学的課題—

○中川輝彦（熊本大学）

4-4 葉酸と妊娠、諸外国における葉酸の穀物への添加と日本の現状

—食と健康の社会学の視点から—

○笹谷絵里（花園大学）

4-5 「性同一性障害」による医療化が持つ多層的なせめぎあい

—性別移行のために医療を利用する人々の「性同一性障害」との距離の取り方から—

○小西優実（東京大学大学院）

RTD 1	15:00～17:00	会場4：201
-------	-------------	---------

R-1 「生きる権利」を考え続ける

—パターナリズムと自己決定権を超えて—

企画者： 細田満和子（星槎大学/東京大学）

話題提供者： 河原あゆみ（ALS 協会神奈川県支部）

川口有美子（NPO 法人 ALS/MND サポートセンターさくら会）

杉原正子（まさこ心のクリニック自由が丘）

大会シンポジウム	16:00～18:00	会場1・2：106・101
----------	-------------	---------------

シンポジウム ケアの主体を問い直す

司会： 三井さよ（法政大学）

本多康生（福岡大学）

S-1 公衆衛生看護職（保健師）が住民に行うケアとは

——複合的な健康ニーズをもつ地域住民への支援——

○安齋由貴子（清泉女学院大学）

S-2 ケアの主体を編みなおす

——ドゥーリア・境界システム・メッシュワーク——

○矢原隆行（熊本大学）

S-3 現代日本社会におけるケアをめぐる行為と関係

○天田城介（中央大学）

プログラム第2日目：5月26日（日）

一般演題／口演	9:15～11:15	会場4：201
---------	------------	---------

●セッション5 外見・身体

司会：土肥真奈（東京医療保健大学）

5-1 美容師と医療者が連携して取り組むアピランスの支援

—美容師の実践に着目して—

○菅森朝子（立教大学）

5-2 手術痕に関する経験的研究のレビュー

—スティグマに着目して—

○田中祐史（名古屋大学大学院）

5-3 がんと共に生きる人にとっての化粧の意味

—化学療法の為に通院中の人に焦点を当てて—

○谷口明音（日本赤十字看護大学看護学部）

5-4 がんサバイバーシップケアのための写真コラージュ実践

—「自分らしさ」探究のビジュアル・エスノグラフィー—

○佐々木加奈子（東京大学・JSPS 特別研究員）・山田カオル（山形県立保健医療大学）

5-5 COVID-19 収束期におけるマスクの着用頻度・習慣に関連する要因

○石田みのり（長崎大学）・平野裕子（長崎大学）

一般演題／口演	9:15～11:15	会場5：216
---------	------------	---------

●セッション6 支援・語り

司会：大日義晴（和洋女子大学）

6-1 「誰も訪問にこない10日間はすごく怖かった」

—医療的ケア児の家族のコロナ体験の語りから—

○佐藤（佐久間）りか¹・澤田明子^{1,2}・豊本莉恵^{1,3}・原田雅義^{1,4}（NPO 法人健康と病いの語りディペックス・ジャパン¹・麗澤大学²・京都大学大学院³・四條畷学園大学⁴）

6-2 人生におけるナルコレプシーの意味づけに家族はどう関わるのか

○澤田雅斗（一橋大学大学院）

6-3 育児期の現代女性における他者との距離と子育て支援

○木村美也子（聖マリアンナ医科大学）

6-4 高齢者の「持てる力」をめぐる実践としてのケア

—日本のホームホスピスを事例に—

○吉田佳右（大阪大学大学院）

一般演題／口演	9:15～11:15	会場6:217
---------	------------	---------

●セッション7 組織・連携（2）

司会：畠山洋輔（東邦大学）

7-1 ポストコロナ時代におけるピアサポートの取組みと課題

—全国 HIV 陽性者円卓会議での検討を通して—

○大島岳（明治大学・ぷれいす東京）

7-2 看護業務遂行を可能にする道具

—オペレーションマネジメントツールとしてのホワイトボードの分析—

○谷川千佳子（旭川市立大学）

7-3 「看護師の被抑圧者集団行動」の概念分析

○末武友紀子（日本赤十字看護大学大学院）・細野知子（日本赤十字看護大学）

7-4 営利法人が経営参画する民間中小病院のコロナ対応

—医療組織の二重権限構造を巡る「医経分離」概念に着目した事例研究—

○鹿島謙輔（埼玉大学大学院博士後期課程）

7-5 保健・医療・福祉・教育の連携による水害に関する防災教育の検討

○浦野慶子（帝京大学）

RTD 2	9:15～11:15	会場7:335
-------	------------	---------

R-2 とともに働ける社会実現への課題

—障害学生の語り・医療的ケア児の家族の語りを収集した経験から—

企画者： 畑中綾子（尚美学園大学）

話題提供者： 瀬戸山陽子（東京医科大学）

岩岡美咲（一般社団法人わをん）

菅野摂子（埼玉大学）

RTD 3	9:15～11:15	会場8:336
-------	------------	---------

R-3 緩和ケア病棟の臨床社会学

—専門役割中心の「客観知（≡専門知）- 医学モデル」から当事者中心の「主観知（≡体験知）- 関係モデル」へ転換によって生じた緩和ケア病棟の共支援的共緩和的変容—

企画者： 田代順（ナラティヴアプローチ研究室/対話ラボ）

話題提供者： 西澤有喜子（NPO 法人碧き水の里）

看護・ケア研究部会総会	11:30～12:00	会場11:委員会室(516)
-------------	-------------	----------------

総会・授賞式	12:00～12:50	会場1:106
--------	-------------	---------

50周年記念公開 シンポジウム	13:15～15:15	会場1・2:106・101
--------------------	-------------	---------------

S-1 薬害と保健医療社会学の50年

シンポジスト： 花井十伍（薬害エイズ大阪原告団団長、全国薬害被害者
団体連絡協議会世話人）

近澤昭雄（イレッサ薬害遺族）

小澤温（薬害スモン調査・薬害エイズ調査、筑波大学）

司会： 田代志門（東北大学）

佐藤哲彦（関西学院大学）

RTD 4	15:30～17:30	会場4:201
-------	-------------	---------

R-4 「地域共生社会」におけるケア実践のフィールドワーク

—現場のリアリティと時間をどう捉えるか—

企画者：井口高志（東京大学）

話題提供者：三枝七都子（東京大学）

坂井愛理（追手門学院大学）

染谷莉奈子（日本学術振興会・法政大学）

RTD 5	15:30～17:30	会場5:216
-------	-------------	---------

R-5 「AI(人工知能)の医療社会学」を模索する（その1）

—我々はAIとヘルスケアをどう結合できるのか？—

企画者：村岡 潔（岡山商科大学）

話題提供者：福島智子（松本大学大学院）

大林雅之（東洋英和女学院大学）

RTD 6	15:30～17:30	会場6:217
-------	-------------	---------

R-6 研究を活かし育てる研究倫理の在り方再考

企画者・司会者：坂井志織（淑徳大学）

話題提供者：北尾良太（京都大学）

木矢幸孝（東京大学）

細野知子（日本赤十字看護大学）

指定討論者：田代志門（東北大学）

RTD 7	15:30～17:30	会場7:335
-------	-------------	---------

R-7 ポスト博論での研究の進め方を考える

ー精神・発達障害の社会学を例にー

企画者： 美馬達哉（立命館大学）

話題提供者： 高木美歩（立命館大学）

渡辺翔平（大阪府立大学）

志水洋人（エジンバラ大学）

RTD 8	15:30～17:30	会場8:336
-------	-------------	---------

R-8 再び生きるために2

ーピアサポートの社会実装と倫理ー

企画者： 小林幸治（目白大学）

話題提供者： 宿野部武志（一般社団法人ピーペック）

葉山靖明（NPO 学びあい）